

 <p>インスピレーションになろう RI会長 パリー ラシン</p>	 <p>2018-2019年</p>	<p>Rotary District 2640 Japan 海南東ロータリークラブ ROTARY CLUB OF KAINAN EAST</p> <p>会長 山畑 弥生 幹事 中村 俊之 SAA 田岡 郁敏</p>
---	---	---

第 1985 回例会

平成 31 年 2 月 25 日(月)

12:30～ 海南商工会議所 4F

ゲスト卓話 「外国人から見た和歌山の魅力」

サイモン ワーン さん (オーストラリア)

1. 開会点鐘

2. ロータリーソング 「それでこそロータリー」

3. 出席報告

会員総数 42 名 出席者数 28 名

出席率 66.67 % 前回修正出席率 59.52 %

4. 会長スピーチ

会長 山畑 弥生 君

皆さん こんにちは！Welcome
to KAINAN EAST ROTARY CLUB
Mr. Simon Wearne.

We are looking forward to your
speech. Please speech later.

昨日は早朝よりクリーンアップ
作戦に、ご参加頂いた皆さんご苦
労様でした。朝、9 時に商工会議所を出発して、海
南西 RC は 23 名で温山荘迄、当クラブは 28 名で藤
白神社迄、往復の道路のゴミ拾いを致しました。海
南市指定のゴミ袋約 50 袋のゴミが拾われ、11 時半
で活動を終え、「うたげ」に於いて昼食とドリンク
を頂ながら終始和やかな雰囲気の中で無事終了致
しました。目的の一つであるロータリーのイメージ
向上と奉仕活動を通じて親睦も深められたこと
と思います。

次に、前回の非常に勉強になった寺下さんの卓話
の中で The Four-Way Test の意味と解釈が分かり
にくいとのことでしたので説明させていただきます。

Way には、道の他に人生などの歩み、課題解決の
方法や慣習になっている生活や行動などの様式と
云った意味があります。そして、Test には、試験の
他に試金石と云う意味があり、試金石とは人や物の
価値を比較する為の判断材料で、今後うまくいくか
どうかを見極めると云う意味があります。よって
The Four-Way Test は、事業を繁栄に導くための四
通りの基準と云うこととなります。昔は、この四つ
のテストを、職業の倫理訓として其々の事業所に掲

げられていたようで、山東さんの事務所には、現在
もこの四つのテストが掲げられているそうです。そ
して、私が、この意味と解釈を知ったのは、今年の
4 月～6 月に月一回のペースで合計 3 回 ロータリー
リーダーシップ研究会 (RLI) に参加させて頂いた
からです。その研究会の目的はロータリアンのロー
タリーへのモチベーションを高めリーダーシップ
を涵養すること。※涵養＝無理のない様にだんだん
養成する事にあります。

一組が 6～8 名で 6 組に分かれ、1 セッション 50
分で 1 日に 6 セッション行われます。其々のディス
カッションリーダーの元、提示された課題について
グループディスカッションします。その中で他のク
ラブの情報や問題点等も知り解決のヒントを頂く
こともあります。ロータリアンであれば誰でも参加
出来ますが、本年度は寺下会長エレクトと前田次年
度幹事宛に地区より申込みの案内が届きましたの
で、お二人とも参加申込みをされております。過去
には、中西さんも受講されていますがロータリーを
知る上で大変役に立つと思います。

次に、2 月 5 日に開催されました議事録の開示に
伴い補足説明致します。

米山記念奨学生ジュリアン君はこの春卒業なの
で、新しい奨学生を受け入れることに決定致しまし
た。なお、カウンセラーは、引き続きベテランの阪
口さんにお引き受け頂きました。阪口さん、どうぞ
宜しくお願い致します。

次に、花見例会の件ですが、4 月 1 日の夜間例会
に藤白の侘楓にて開催する予定です。

尚、当初、花見例会に台湾彰化東南 RC を招待す
る予定でしたが次年度 45 周年に来訪されると寺下
国際委員長に連絡があったそうですので、本年度は
残念ですが来訪されません。

そして、第 2000 回例会の件ですが、順調に行け
ば本年度最終例会の 6 月 24 日に、その間に臨時休
会があれば 7 月 1 日に 2000 回を迎えます。記念に
なるような例会にして、お祝いしたいと思い只今検
討中ですので良い案がございましたら、お知らせ下
さい。

2月 は 平和と紛争予防 / 紛争解決月間です

四つのテスト 言行はこれにてらしてから

- ① 真実かどうか ③ 好意と友情を深められるか
② みんなに公平か ④ みんなのためになるかどうか



事務所 〒642-0002

海南市日方 1294 (海南商工会議所 4F)

TEL:073-483-0801 FAX:073-483-2266

<http://www.kainaneast-rc.jp>

E-mail : info@kainaneast-rc.jp

ち向かいました。Binghamton ロータリークラブ（米国ニューヨーク州）の会員ラナ K. ルーフさんは、薬物の過剰服用で亡くなった若い男性の葬儀に参列し、自分がすべきことを悟りました。

「ショックと悲しみで体が震え、心の痛みで体が貫かれるようでした。しかし同時に、何か行動を起こさなくてはいけないという気持ちが閃光のように走りました」ルーフさんはすぐさま、クラブの仲間やほかの地元クラブと連絡を取り、どうすれば、この問題に対応できるかを問いかけました。数カ月をかけて調査を行い、保健機関、薬物乱用の専門家、教育関係者、マスコミ専門家の意見を聞き、ロータリー財団のグローバル補助金 10 万 7,000 ドル（約 1,170 万円）のプロジェクトを計画しました。

プロジェクトは、流行に影響を受けやすい若い世代を対象にしました。地域全体で薬物依存に対する対処法や防止について学ぶ機会を設け、リーダーシップや意思決定について教えることで若者が薬物乱用に走ることを防ぐためです。しかし、グローバル補助金を受けるための条件が 1 つ残されていました。援助国側提唱者との協力です。35,000 のクラブと 120 万人の会員がいるロータリーの世界に目を向け、協力者を探しました。まず、メキシコ、それからカナダのロータリークラブが協力を申し出てくれました。それにインドの 2 つのクラブ (Coimbatore Central と Madras Coramandel) が多くの寄付を寄せてくれました。

国際的な援助を活用する



「米国内の問題の解決に力を貸してくれる人を他国で探すのは容易じゃない」と、ルーフさんは

言います。メキシコ最北に位置するバハ・カリフォルニアの Tijuana Oeste ロータリークラブと協力関係を結ぶまで 6 カ月を必要としました。その間、援助国側提唱者となるためにクラブ仲間呼びかけを行っていました。北の隣人に対し、この援助を行うことは重要であると考えたからです。

一部の人からは、資金はメキシコ国内の貧困や健康の問題にあてるべきではないかとの声があがりました。しかし、ときには受け取るのではなく与えることのほうが良いと説得しました。

「私たちは、アメリカが薬物依存という病に立ち向かい、より大きなインパクトをもたらす世界に変化を生み出すための、その手助けをする機会を得たのです」と「このような危機はどこでも起こりうるもので、どの地域社会をも荒廃させます。そうなったらどんなに酷い状況になるかを私たちは知っています。私はこの重大なプロジェクトの始動に一役買えることを誇りに思います」

薬物危機はカナダでも同じだと言います。カナダ

での 2016 年から 2018 年にかけての薬物過剰服用による死者は 9,000 人に上り、30 代のカナダ人の主な死因となっています。「国際援助を考えたとき、多くの場合は遠く離れた国のことを想像します。しかし隣国が危機に陥ったときに助けるのも援助の一つです」

情報とツールを提供する

今日の薬物危機（オピオイド系薬物乱用の蔓延）は、米国の歴史を振り返ってみても致命的な状況です。米国疾病対策センターは、薬物過剰服用による死者が 1 日 130 人以上、依存に苦しむ人は何百万人にも上ると推定しています。2011 年以來、米国での薬物による死者数は銃器、自動車事故、自殺、殺人による数を上回っています。ニューヨーク州においては死亡事故の主な原因です。

子どもや 10 代の青少年も例外ではなく、日本の高校三年生にあたる子どもたちの約 4 分の 1 が、何らかの形で処方薬物に接触した経験を持ちます。彼らこそ薬物について学び、保護されなくてはならない一番の対象者だとルーフさんは強調します。この 1 年と半年、グローバル補助金によって、11 の高校から約 50 人の高校生を集めた一連の週末セミナーが行われました。彼らはニューヨーク州シラキュースにある関連機関に集まり、薬物に手を出さないための知識と自信、友人たちに教えるための薬物とアルコールの危険性を学びました。「私たちは次の世代の模範をつくる手助けをしたいと考えています」とルーフさん。「この取り組みによって、予想を超える結果を出せたと感じています」

このプロジェクトに参加したロータリークラブは、一般の人びとの認識を高めるためのキャンペーンをあちこちで行いました。そこで薬物乱用の兆候や症状、処方薬を安全に処分するための回収箱の場所を教える地元の電話情報サービスなど、重要な情報を伝えました。自分たちで 60,000 枚以上の折込チラシ、パンフレット、ポストカードを作成し、配布も行いました。「できる限りたくさん場所でキャンペーンを行った」学校に図書館、公民館などの公共の建物、医療機関や役所、教会、それにロータリーの会合で開催したほか、配布物を生徒の成績表に同封しました。協力した教師の中には、両親に向けて郵送した人もいます。

また、補助金でオンライン広告やソーシャルメディアでのキャンペーンも行い、地元のテレビやラジオ局では、薬物による危機的状況に陥ったときに地域住民ができることの一覧を公開しました。フェイスブックを立ち上げ、ユーチューブ広告を作成した会員もいました。さらに、ロータリークラブは地元の薬物中毒対応センターにも医療用品や管理用品の購入費、患者のための受診時に利用できる交通移動クーポン、処方薬の回収箱を 3 つ提供しました。回収箱に入れられた薬は毎月警察が回収し、焼却処分しています。